様似町における自然教育への取組み

Aspirations of Nature Education in Samani

水野 洋一 [1]; 原田 卓見 [1]
Youiti Mizuno[1]; Takumi Harada[1]

[1] 様似町教育委員会
[1] Samani Board of Education

http://www.hokkai.or.jp/samani/

「花の山・アポイ」を有する様似町では、1990 年代から自分たちの足元にある「豊かで特色ある自然環境」に目を向けようという機運が高まり、動植物や岩石、地質などの自然観察会・自然史講座を数多く行ってきた。そうしたなか、アポイ岳高山植物の盗掘事件を契機に、アポイを愛する有志によって 1997 年に「アポイ岳ファンクラブ」が発足した。本稿では、アポイ岳高山植物の遷移とアポイ岳ファンクラブによる保護・再生活動を中心に、自然教育による地域の新たな価値観を模索する取組みについて紹介する。

アポイ周辺の植物研究の歴史は古く、明治中期以降の多くの研究者により、その学術的価値が認識されていた。1952 年には、アポイ岳高山植物群落が国の特別天然記念物に指定されるなど、アポイ山塊一帯は日高山脈襟裳国定公園（1981 年指定）の中でも特異な自然を有することで知られている。しかし、こうした特色は、地元においては最近まで単なる観光資源としてのとらえ方でしか認識されていなかった。

1992 年、独立館としてオープンした図書館が、「地域に根ざした図書館」を目指そうと、地域の自然を題材にした自然観察会「野外図書館」や自然史系図書館講座を数多く実施するようになると、徐々に住民の間で自然環境への理解が広がっていった。

アポイでの異変が顕在化したのは、1996・1997 年に発生したヒダカソウ（アポイ岳固有種）などの大量盗掘事件である。それまでも登山者や愛好家が花を持ち帰る行為は見受けられていたが、100 株以上という大量の盗掘を確認したのは初めてであった。これを契機に、北海道や様似町などの関係機関で構成する「アポイ岳保全対策協議会」と有志による「アポイ岳ファンクラブ」が発足し、高山植物の盗掘防止キャンペーンやパトロール、踏み荒しを防ぐ登山道整備などの保護活動が官民一体となって行われた。特に、アポイ岳ファンクラブの活動は「アポイ方式」と呼ばれ、官民連携による自然保護活動の成功例として高く評価されている。

アポイ岳及びその周辺は、マントル起源の岩石・かんらん岩が地下深くにあったままの状態で大規模に露出する、世界的にも極めて貴重な岩体である。そのため、以前より数多くの地質学者や学生が様似町を訪れている。町やアポイ岳ファンクラブは、こうした研究者とコンタクトを重ねるなかで、研究成果を地元に還元していただく一方、各種研究会の運営をサポートするなど相互交流を深めてきた。これらの交流は、1997 年に研究者の長期滞在をサポートするために町が開設した宿泊施設「アポイ岳調査研究支援センター」が基盤となっている。

現在、アポイ岳高山植物の盗掘被害は、アポイ岳ファンクラブを中心とする保護活動と大々的な報道によりほぼ見受けられない。しかし、盗掘がなくなると、その陰で進行していた自然の遷移が顕著となってきた。ハイマツなどの樹林の伸長により、岩隙地のお花畑が急速に減少していることが明らかになってきたのである。このため、岩隙地の森林化を退行遷移に誘導することで、花々が再生する可能性を探ろうと、2005 年に研究者、アポイ岳ファンクラブ、行政をメンバーとする「カムバック 1952 アポイ岳再生委員会」を設立し、国定公園特別保護地区近くの民有林地で地表撹乱を行って人工的に岩隙地をつくり、そこに高山植物を播種する試みを続けている。

ここでは、2008 年春にエゾコウゾリナ（アポイ岳固有種）が見事に花を咲かせており、2009 年はさらに実験地を広げデータを蓄積することとしている。

温暖化など地球環境の変化が叫ばれて久しいが、アポイ岳においても加速度的に進むハイマツの伸長、エゾシカの増殖による食害、セイヨウオオマルハナバチなどの外来種の侵入による在来種への影響など、急激な自然環境の変化にさらされている。町とアポイ岳ファンクラブでは、こうした環境変化への理解を深めるとともに、その対策にも力を注いでいる。2007 年には、野に咲く身近なカタクリを通して自然環境を考える「第 5 回全国かたくりサミット」を様似町で開催するなど、住民への啓発活動にも積極的に取り組んでいる。

住民も、自分たちがいかに恵まれた自然環境に囲まれているかということを理解し、また、これら貴重な自然が身近に存在することが自分たちの大きな財産であり誇りであることを実感している。様似町では、アポイ岳ジオパークの運営を通じて、この流れをさらに大きなものにしていくことで、自律的かつ活力ある地域社会をつくり上げていきたいと考えている。